

英語教育研究法セミナー 2 A 論文の体裁を整える: APA Style Manual を活用して

浦野 研 (urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp)
北海学園大学

発表資料およびその他補足情報は、ウェブ上にも公開します。以下の URL をご利用ください。
<http://www.urano-ken.com/research/seminar/>

0. 要旨

本学会の紀要に論文を投稿する際には、引用文献欄の書式を APA Style Manual の最新版（以下 APA マニュアル）の指示に従ったものにする必要がある。APA マニュアルというと、引用文献欄の書き方の参考書のように考える方もいるかもしれないが、実はそれ以外にも、論文執筆の様々な側面における詳細かつ有用なアドバイスが多く掲載されている。

そこで今回は、APA マニュアルの中から、論文の構成（章立て）の仕方、引用の仕方、図表の描き方、統計情報の掲載の仕方、タイトルのつけ方など、研究論文を執筆する中で特に知っていただきたい内容を中心に紹介する。すでに論文を執筆されてきた方にとっては、自分のこれまでのやり方を振り返る機会に、これから研究論文を執筆される方には何らかのガイドラインとなれば幸いである。

1. APA スタイルとは

1.1. APA スタイルって？なぜ APA スタイル？

- *Publication Manual of the American Psychological Association*（以下 APA マニュアル）で示された指示に従った書き方。
- 最新版は 2001 年出版の第 5 版。
- もともとは心理学研究のためのものだったが、現在ではかなり広い研究分野（応用言語学や英語教育研究も含む）でスタンダードとなっている。
- 日本（の英語教育系の研究論集等）では引用文献欄の書式について（のみ）APA スタイルに準拠することという指示が多いが（中部の紀要も）、APA マニュアル自体は引用方法だけでなく、論文の構成、句読法、文法、統計、図表の書き方等論文執筆のすべての段階における詳細な指示がある。
- 400 ページを超える長さなので、すべての内容を覚えておくことは無理。自分で 1 冊所有するか図書館等身近にアクセスできる所に 1 冊あると何かと便利。

2. 論文の構成

2.1. 実証研究の場合

- Introduction - 何が問題なのかを読者に説明し、研究の目的を明確にする
 - Introduce the problem
 - Develop the background
 - State the purpose and rationale
- Method - 追試 (replication) を行うのに必要な情報を提示する
 - Participants/Subjects
 - Apparatus
 - Procedure

- Results - データの分析結果を提示する
 - Tables and figures
 - Statistical presentation
- Discussion - 分析結果を解釈する
 - Support/Nonsupport for hypotheses
 - Reference to relevant previous studies
 - Conclusion
- References
- Appendix

3. 引用

3.1. 大前提

- 自分のものであれ、他人のものであれ、すでに他所で発表されている内容に触れる場合には必ず出典を明記する。
- 読者が引用元を確認したい時にそれを探すのに必要な情報を提示する。
- 直接引用はあまり使わない方が良い。使うとしたら、元の著者の言葉を一字一句そのまま表記することに意味がある時だけにする（浦野メモ）。

3.2. 引用の種類

- 直接引用（quotation）
 - 原典を一字一句正確に引用する。ただし、引用箇所冒頭の大文字小文字の変更と句読点の変更はしてもよい。引用部分を一部略す場合は ... で表し、語句を足す場合には [] で囲み、一部を強調する場合にはイタリック体を用いて直後に [italics added] と記す。
 - 40 語未満の引用は “ ” で囲んで本文中に含め、40 語以上は段落をかえる（block quotation）。
- 間接的な引用（paraphrase/summary）
 - 原典の内容を自分のことばでまとめる。
 - 間接的な引用の場合、ページ番号等は必須ではないものの、出典に関する情報はできるだけ詳しく提示する（APA マニュアル, p. 121）。

3.3. 引用の方法

- 基本的には著者の苗字、出版（発表）年、それにページ番号を明記する。
 - 本文の一部として表記する場合: Urano (2008) argues that ... (p. 123).
 - 本文の外にカッコ付で表記する場合: ... (Urano, 2008, p. 123).
- 間接引用等でページ番号まで限定しない時にも、章番号やパラグラフ番号等できる限り詳しく提示する。
 - 章番号の場合: ... (Urano, 2008, chap. 3).
 - パラグラフ番号が明記されている場合: ... (Urano, 2008, ¶ 2). または ... (Urano, 2008, para. 2).
- 同じ文献に1つのパラグラフ内で複数回言及するとき、2回目以降は出版年を省略する。
 - 1回目: Urano (2008) argues that / 2回目以降: Urano also suggests
- 著者が2名の場合は苗字を and で結ぶ。ただしカッコ内の場合には&記号を使う。
 - Urano and Tanaka (2008) argue that
 - ... (Urano & Tanaka, 2008).

- 著者が3—5名の場合は、初出の時に全員の苗字を表記し、2度目以降は筆頭著者 et al. と表記する。
 - 初出: Urano, Tanaka, Honda, and Takagi (2008) argue that / 2度目以降: Urano et al. also suggest
 - カッコ付の場合: ... (Urano, Tanaka, Honda, & Takagi, 2008).
- 著者が6名以上の場合は、初出から筆頭著者 et al. と表記し、引用文献欄には全員分の氏名を記す。
- 同じ苗字の複数の著者がいる場合は、イニシャル+苗字と表記する。
 - R. Ellis (2002) and N. Ellis (2004) both argue that....
- カッコ内に複数の文献を表記する場合は文献間にセミコロンを置く。また、出版年順ではなく苗字のアルファベット順に並べる。
 - 誤: ... (Urano, 1998; Tanaka, 2003; Honda & Takagi, 2008).
 - 正: ... (Honda & Takagi, 2008; Tanaka, 2003; Urano, 1998).

3.4. 引用文献欄（1）一文献の並べ方

- （筆頭）著者の苗字のアルファベット順に並べる。
- 同じ著者の単著と共著がある場合、単著が先。
- 同じ著者の文献が複数ある場合、出版（発表）年の早い順に並べる。
- すでに出版が決まっている文献については in press と表記。
- 同じ著者の同じ出版（発表）年の文献が複数ある場合は、出版（発表）日時の古い順に年の後ろに a, b, c... と付けて並べる。
 - Urano (2008a, 2008b, 2008c)....

3.5. 引用文献欄（2）一表記法

- 本: 「苗字+カンマ+スペース+イニシャル+ピリオド」。書名はイタリック。1語目の頭文字（とサブタイトルの1語目の頭文字）だけ大文字。最後に都市と出版社名。
 - Hawkins, R. (2001). *Second language syntax: A generative introduction*. Malden, MA: Blackwell.
- 雑誌（ジャーナル）掲載論文: 論文名はイタリックなし。1語目の最初（とサブタイトルの1語目の最初）だけ大文字。雑誌名と号数はイタリック。すべての語の頭文字を大文字にする。ページ番号はイタリックなし。
 - Urano, K. (2008). Potential causes of errors in subject-verb agreement in L2 English. *The Chubu English Language Education Society*, 37, 41-48.
- 編者のいる本に収録された論文: 編者の表記法に注意。ページ番号は書名の最後にカッコと pp. を付けて表記。
 - Haznedar, B., & Schwartz, B. D. (1997). Are there optimal infinitives in child L2 acquisition? In E. Huges et al., (eds.), *Proceedings of the 21st annual Boston University conference on language development* (pp. 257-268). Somerville, MA: Cascadilla Press.
- 学会発表: 発表年と月まで表記。タイトルは本と一緒に。学会名や開催都市を明記。
 - Birch, G. (2008, June). *Assistant language teachers' roles and duties: Official documents versus ALT self reports*. Paper presented at the annual meeting of the Chubu English Language Education Society, Nagano, Japan.
- 2人の共著: 著者の間はカンマと&記号。
 - Lightbown, P. M., & Spada, N. (1999)....
- 3人以上の共著: 著者の間はカンマ、最後の著者の前はカンマと&記号。
 - Berent, G. P., Kelly, R. R., Porter, J. E., & Fonzi, J. (2008)....
- その他もろもろは、最新版のAPAマニュアルを参照のこと。

4. その他

4.1. タイトルのつけ方

- タイトルは論文の要点を簡潔に、そしてできればかっこよく。10-12 語が理想（APA マニュアル, pp 10-11）。
- タイトルだけを見ても意味の通じる内容に。
- A study of... といった当たり前の語句は排除する。

4.2. 表

- 本文中に数字をたくさん埋め込むと読みにくくなるので、その場合には表にまとめる。
- 行列が2 以下の場合、表にせず本文中に数字を記した方がわかりやすい。
- ただし表が多くなると見づらくなるので注意。
- 表は横線のみで表記。縦線はすべて消す。
- すべての表にタイトルを。タイトルは簡潔に、しかしわかりやすく。
- すべての列にタイトル（heading）を。
- 提示した表のすべてに本文中で言及する。逆に言えば、本文中に出てこない表は削除。

4.3. 図

- 本当に図が必要か考える。
- 基本的に白黒印刷を前提に作成する。
- その他もろもろは、最新版の APA マニュアルを参照のこと。

4.4. 統計情報の表記（ごく一部）

- 出てくる数値が3 つ以下なら本文中に表記、4 – 20 なら表にまとめ、20 より多ければグラフにまとめることを検討する。
- 統計表記に使われる記号は原則イタリック（例: 平均値 *M*、標準偏差 *SD*、ピアソンの相関係数 *r*）。
- 推測統計（*t* 検定、分散分析、 χ^2 検定等）を提示するときは、数値、自由度、*p* 値を必ず含める。
- 効果量も極力提示する。
- 小数点以下は通常 2 桁まで表記。
- 1 より小さい数値は .65 ではなく 0.65 とゼロを必ず書く。ただし、理論上 1 を超えることのない数値（*p* 値や相関係数等）はゼロを省略する（例: $r = .65$ ）。
- その他もろもろは、最新版の APA マニュアルを参照のこと。

5. メモ